

ドライブレコーダー映像を 消防・救急活動に活用

街を走る車両が自然に社会を支える

トヨタ自動車は、交通事故や災害現場における迅速な状況把握という社会課題の解決に向け、ドライブレコーダー映像を消防活動に活用する「DRIVE RECORDER 119」を推進している。119番通報では通報者の説明のみで現場状況を把握することが難しいという消防現場の課題に着目。周辺を走行する車両のドライブレコーダー映像をリアルタイムで共有し、的確な出動判断と初動対応の高度化を図る。

話や実証実験を重ねながら進めてきた。23年には堺市でサービスの提供を開始し、約800台のバスやタクシー、トラックに搭載された専用ドライブレコーダーを活用して実用化した。京都市では約500台規模で実証を行っている。

携する新たな枠組みの実証を開始し、導入コストや運用負担の軽減を図りつつ普及拡大を目指している。

厳格なアクセス制御、適切な情報公開を徹底する。有識者へのヒアリングや堺市での調査では9割以上が映像活用に抵抗がないと回答し、透明性ある運用を通じた社会受容性の醸成にも取り組んでいる。

この取り組みは2020年、社内の新事業創造プログラムからスタートした。消防関係者との対



実証では、現場映像の活用により医療行為の開始が15分早まった事例や、立体交差点での事故位置を正確に特定し現場到着時間を約5分短縮した事例などを確認した。救命率向上や二次災害防止への効果を示し、堺市消防局が同システムを使用した事案の約4割で現場映像の確認が可能となり、出動判断の精度向上にも寄与している。

一方で同社は、個人情報保護とプライバシー尊重を重要な柱に位置付け、映像の匿名化処理や

今後は保険会社の通信型ドライブレコーダーやコネクテッドカーとの連携を視野に入れ、災害時に全国の消防機関が映像を共有できる仕組みの実現を目指す。街を走る車両が自然に社会を支える存在となるモビリティ社会の実現に向け、データ活用による安全・安心の向上に貢献していく考えだ。

トヨタ自動車

【受賞者コメント】この度はCSP大賞にお選びいただきありがとうございます。DRIVE RECORDER 119は人の命に向き合う消防の皆様、交通事故をなくしたいと願う交通事業者の皆様、安全で安心なまちづくりにご尽力されている自治体の皆様に育ていただいたプロジェクトです。「交通事故で悲しい思いをする人をなくしたい」という想いに共感いただける方々の輪を広げ、モビリティ社会の究極の願い「交通事故死傷者ゼロ」の実現に精一杯貢献してまいります。